広報誌

# キッズふくしまインたかだ

創刊号
2014年6月15日

(発行)
キッズふくしまインたかだ実行委員会
(事務局)
〒 943-0892
新潟県上越市寺町2-24-4
真宗大谷派高田教務所内
TEL:025-524-3913／FAX:025-524-2645
URL:http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/

## 広報『キッズふくしまインたかだ』創刊にあたり

実行委員長
高田教区第四組 養性寺
内山 真明（うちやま まさあき）

「キッズふくしま」からこの度広報を出させてもらうこととなりました。「キッズふくしま」もあり難いことに多くの方々のお力添えがあり、今回の夏で7回目の保養を迎えます。原発事故から3年経過した今報道はどうでしょうか。福島から放射能が無くなったという報道はありますか。

**スプリングキャンプの様子（2014.3）**
**～池の平青少幼年センターにて～**

福島に住む人達から「不安」の声は消えましたか。私が出会う福島県に住んでいる方々から「不安はなくなりました」という声や「放射能がなくなりました」という話は未だ聞こえてきません。

私が聞いている声は「除染が進まなくてまだ私たちの所まで来てないのよ」という声、「また夏のキッズで海に連れて行ってもらえませんか？」の声や「企業が行なう保養になかなか当たらなくてね。そんな時にキッズふくしまの話を友達から聞いたんですよ。うちの子どもを宜しくお願いします」。そういう子ども達に対して「生きること」に「育てること、育つこと」に切実な声が聞こえてきます。

私達大人は子ども達を「子ども」としてしか見ないで「一人の人間」や「存在」として見ることができなくなっている部分があるように思います。それは、自分達は経験豊富だから経験のない者は黙っていろ、おとなしくしていろという私達の慢心とも言えるのではないでしょうか。

子ども達は報道で何度も見ているから、放射能の影響から外で自由に遊ぶために親の判断がないと遊べないことを知っています。誰が子ども達にそんな思いをさせてしまったのでしょうか。国、東京電力、この二つだけの問題ではありません。原発が爆発するまで危ない事を知っていながら黙認してきた私達大人です。私達はどうしたらいいでしょうか。子ども達に「未来にやっかいなもの残すから宜しく」と笑いながらバトンタッチをしますか。あれはダメこれはダメとどうでもいい事で転ばぬ先の杖の役割を私達は果たしながら、本当にあってはならない事に目を背け続けますか。

一人間存在である子ども達に頭を下げ、これから個々がどうするべきかを子どもと大人が活動を通し、共に考え、朋(とも)に行う活動が「キッズふくしま」だと考えています。

今、出来ることは何ですか。今、するべき事は何ですか。この広報を通し、読んで下さる方々と「キッズふくしま」の今後の活動の共有とご理解、ご賛同賜りながら放射能について、この活動について是非一緒に考えていただきたいと思います。

# キッズふくしまインたかだ
# スプリングキャンプ ２０１４

## 2014年3月24日～29日

**１日目（３月２４日）**
福島県から
池の平青少幼年センターへ

センター内で
オリエンテーション

福島から総勢３８名の小中学生が大型バスで到着！
約８時間の長旅でした

夕食の後はウエルカムパーティー。飯田恵輔さん（上越市在住）によるマジックショーが行われました。多彩なマジックを目の前で鑑賞し、子供たちもマジックに挑戦しました。

初日の夕食はカツカレー
みんなで準備しました

班別活動

すぐ仲良しになれました！

## ２日目（３月２５日）

朝食後の自由時間には
お手玉にも挑戦しました

２日目の朝は食事前の
ヨガ体操からスタート！
目覚めもすっきりです

# 雪上運動会

３月とはいえ２ｍの雪が残る池の平で思い切り外遊びをしました。雪中宝探しにそり遊び。雪焼けで顔が真っ赤になりました。

## ホームページを開設しました

　これまでの「キッズふくしまインたかだ」の取り組み、今後の予定などを、たくさんの写真と共に随時アップしています。ぜひアクセスしてみてください。

　なお、この広報誌のＰＤＦデータもアップしています。印刷・拡散いただければ幸いです。

http://kids-fukushima-in-takada.jimdo.com/

**携帯電話、スマートフォンからの**

**アクセスはこちらから　→ → →**

## 3日目（3月26日）
## センター最終日

**ワラを編んで輪じめ作りに挑戦**
**地元の皆さんから教わりました**

**お世話になった皆さんにお礼をして、ホームステイ先へ出発**

## スタッフ感想

名古屋教区　安樂寺
吉田（よしだ）　昌史（まさし）

今回1年半ぶりに参加させてもらったキッズふくしま。最初は緊張もあって子供たちとどう接していいか探り探りでしたが、やはりそこは子供たち。「これはどうすればいいの？」「ヨッシーはいくつ？ものまねやって！」と無茶ブリもありましたが、子供たちのほうから歩み寄って来てくれてとても嬉しかったです。

今年は名古屋でも2、3日雪が降った日もあったのですが、雪で遊ぶ機会はなく、雪上運動会であったり、子供たちとの雪合戦などで雪に触れることができました。そして何よりも子供たちをお迎えする時から、送り出すところまで参加出来たのでとても充実した3日間を過ごさせてもらいました。

屋内では手品であったり、折り紙やお手玉で子供たちと一緒に遊べました。中でもしめ縄作りは一番印象に残っています。初めて作ったというのもそうですが、何しろ全然うまく作れない。地元の方にここまで教えてもらってもうまく作れない。自分は割と何でもこなせる方だと思ってましたがへし折られた感じでした。

**滋賀県在住の早蕨和典（はやさきかずのり）さんから指導してもらいながら折り紙もしました**

毎回来てくれた子供たちに「何か一つでも思い出作って帰ってもらおう」という思いで、名古屋から行かせて頂いてますが、いつも自分がもらって帰っているような気がします。この経験を名古屋に帰っても生かしたいと思いますし、子供たちの笑顔をこれからも絶やさないよう、また参加できたらと思っています。

# スタッフ感想

高田教区第七組　専念寺
堀河（ほりかわ）　如信（まさゆき）

私は今回、初めてキッズふくしまのキャンプに参加させていただきました。

初日、福島県いわき市へ子どもたちを迎えに行きました。そこから市営のバスで郡山駅まで向かう道中、市営のバスということで、子どもたちが騒いで他のお客様に迷惑を掛けないかという点を気にしていましたが、声を張り上げることもなく、静かに過ごしてくれました。

池の平青少年センターでは、自由時間が大半を占めていたのですが、雪で遊ぶ子や携帯ゲームをする子、友達とお話をする子など、皆がそれぞれ暇をすることなく楽しんでいたように思います。スタッフにも気兼ねなく話し掛けてくれて、私も童心に帰り、一緒にかくれんぼやボール遊びをしました。

予定の中には数人での班に分かれ、互いに教え合って物を作る時間や、班ごとで競い合うこと等があったのですが、何をやらせても一生懸命で楽しそうに取り組んでいたのが印象です。

就寝時間が近づくと布団に入り、しっかりと寝る準備をしていました。特に男の子は昼間にたくさん身体を動かしているせいか、すぐに寝付いてくれました。

私が今回キッズふくしまのキャンプに参加させてもらって感じたのは、子どもたちは誰とでも喋ることができ、一つの物事に熱中するということです。参加してくれた子の中には、「次は男女の距離がもっと縮むような日程にした方がいい」という素晴らしい意見を出してくれる子もいたほどです。また、「今からは○○をして！」と声を掛けると、まだ続けたいと言わんばかりの顔でこちらを見たりする子や、一つの事をし始めると周りの声が聞こえなくなる程集中する子もいました。

子どもたちと過ごした時間で、たくさんのことを教わりました。班の担当として少し声を張り、注意することもありましたが、一緒に遊ぶことも出来、みんなの笑顔に癒され、素直に楽しい二泊三日を過ごすことができました。

# スタッフ募集

実行委員会では随時スタッフを募集しています。**池の平でのサポートスタッフ、ホームステイの受け入れ、または受け入れ先のサポートスタッフ**など何でも結構です。食事だけのサポートなど、短時間でも助かります。ぜひ皆さん声をかけあってこの取り組みにご賛同いただければ幸いです。

# ホームステイの様子 ①

スプリングキャンプ後半の３泊４日は、各家庭でのホームステイです。今回は高田教区内寺院９か寺、及び新井別院で子供たちの受け入れをしました。各ホームステイ先に２名から５名の子供たちが訪問し、色々な体験をさせてもらいました。

## ３日目（３月２６日）～６日目（２９日）ホームステイ

ホームステイ先へのお迎えがきました

| | |
|---|---|
| 26 日 | 自宅で遊び夕食 |
| 27 日 | 水族博物館を見学<br>直江津港で佐渡汽船を見送る<br>浜辺で遊んで温浴施設へ |
| 28 日 | 上越科学館公園で遊ぶ<br>地元児童館で映画鑑賞とキーホルダー作り<br>温浴施設利用後に自宅で夕食 |
| 29 日 | 高田別院で見送り |

## ホームステイを受け入れて

高田教区第三組　浄念寺
石井（いしい）　行信（ぎょうしん）

二〇一一年三月一一日の惨劇をテレビの画面を通じて知りました。その後、福島第一原発の事故による放射能漏えいが、数知れないたくさんの方々に影響を与えました。そのような状況の中、高田教区の有志の皆様もたくさんの支援を行っているということを知り、何か自分たちにもできないかと思ったことがきっかけで、ホームステイの受け入れに賛同しました。

初めて受け入れをしたのは二〇一二年の春。受け入れをしても自分たちに何ができるのか、家族で話をしながら手探りの中で子供たちを迎え入れたことを記憶しています。「子供たちの負った心の傷」、「日々の生活の中でのストレス」などを考えると、かける言葉一つ一つにも気を遣いながら接しようと思っていました。

ところが、子供たちはとっても元気で、明るい笑顔で訪れてくれました。それまで抱えていた不安が払拭されたのと同時に、「子供たちは前向きに生きようとしているのだ」という力強さと決意を感じました。

子供たち同士の会話の中でふと漏れてくる「ベクレル」や「シーベルト」といった放射能濃度を示す単位。そして、外遊びをしながら「いつもは外で遊べないから、家でゲームしている」と話す子供たち。きっと私たちが想像することもできない程のストレスを抱えながら生活をしていることと思います。そして、その親御さんたちもまた、子供たち以上に気を遣いながら生活をしているのだと思いますが、そんな雰囲気を全く見せずに遊ぶ子供たちから、たくさんの元気と勇気をもらいました。

当たり前のことが当たり前にできないというそんな重圧からひと時でも解放されることができるように、これからもできる限りの協力をしていきたいと考えています。

浜辺で遊ぶ子供たち

## ホームステイの様子 ②

| | |
|---|---|
| 26 日 | 自宅で遊び夕食 |
| 27 日 | スケートを楽しむ<br>上越科学館公園で遊ぶ<br>自宅に戻り夕食 |
| 28 日 | キャンプ場で焼き芋<br>他寺院で昼食後、子供講に参加<br>他寺院で夕食後、夜の探検会 |
| 29 日 | 高田別院で見送り |

## ホームステイの様子 ③

| | |
|---|---|
| 26 日 | 上越市内散策後自宅で夕食 |
| 27 日 | 本堂の清掃<br>他寺院にて絵本の読み聞かせ<br>自宅でシュウマイ作り<br>境内で自由時間 |
| 28 日 | お講準備、参詣、お斎<br>上越科学館、スケートリンクで遊ぶ<br>市内飲食店で外食 |
| 29 日 | 高田別院で見送り |

## 「キッズふくしまインたかだ」の活動にご協力をお願いします！

「キッズふくしまインたかだ」の運営に対しての助成、またそれに携わるスタッフの知識習得及び技術の研鑽のための助成を募っています。
ぜひ皆様からのご寄附をお願い致します。

**- ゆうちょ銀行からの振込 -**

**口座記号番号**
**00500−1−101787**
**口座名　キッズふくしま　たかだ**
**（ｷｯｽﾞﾌｸｼﾏ　ﾀｶﾀﾞ）**
**高田郵便局**

**- 他金融機関からの振込 -**

**店番　〇五九（ｾﾞﾛｺﾞｷｭｳ）**
**口座名　キッズふくしま　たかだ**
**預金種目　当座**
**口座番号　0101787**

## 参加してくれた子供たちの声

郡山市　中学2年生
鈴木（すずき）　聖幸（まさゆき）　君

僕がこのキャンプに参加するようになったのは、父が新聞を読んでいて記事を見つけてくれたからです。

二〇一一年三月十一日、あの東日本大震災が起こりました。その後、福島県内の子ども達は原発事故の影響でおもいきり外で遊ぶことができなくなりました。

そして夏、僕は初めて知らない人と他県へ旅行に行くことになりました。最初は各お寺に3～4人でホームステイです。もともと人見知りだった僕はとても不安でした。でもいつの間にか友達になり、毎日がとても楽しくなりました。お寺や池の平青少幼年センターでの体験は、僕にとって初めてのことばかりで、次のキャンプがとても待ち遠しくなっていました。

それからもう3年がたちました。6回目を迎えると、僕はいつの間にか一番年上になっていました。今参加している人達は友達同士が多く、僕みたいに不安を持ってドキドキしている子はいないように思います。それはスタッフさん達がとても優しくてフレンドリーでドキドキする暇、無いんですよね。今、僕は中二になって勉強や部活が忙しくなり、次に参加するかどうかとても悩んでいます。それは、このキャンプが6回ともすごく楽しくて、またみんなに会いたいからです。

このキャンプに参加して、みんなで協力したり、小さな子の面倒をみたり、学んだことはたくさんあります。大きな雪山や川で遊んだり、福島ではできない体験や楽しい思い出もたくさんできました。僕はこの先、このキャンプで学んだ多くのことを活かしていきたいと思います。そして、このキャンプが続く限り関わっていきたいです。

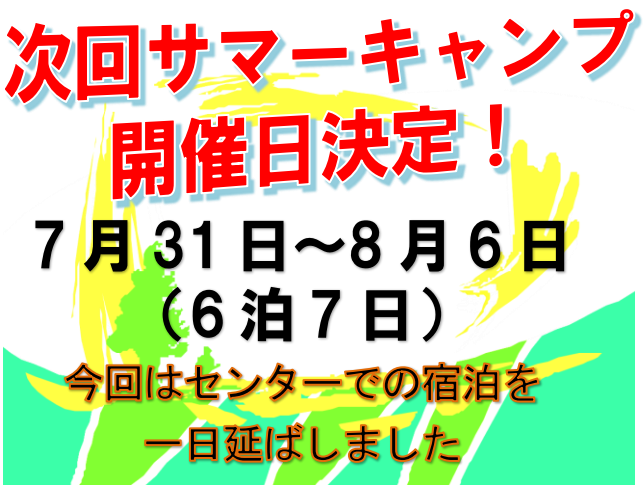
最後に、福島の子ども達のことを心配してキャンプを開催してくれている東本願寺のみなさんに「ありがとうございます」と伝えたいです。

## ご家族からの声

郡山市在住
女性　M・S さん

東日本大震災から3年が過ぎました。私達は福島県郡山市で被災し、その年の7月から平成23年の10月まで関西に子供達三人と母子避難していました。しかし、現実的に二重生活はお金も精神的にも大変で、最終的には家族揃って生活したいと考え福島県に戻りました。

今福島県で生活していて思うことは、放射能のことをみんな忘れたかの様に普通に生活しているということです。数値は下がってきているというものの、周りにはホットスポットもあり…。私達の住む町ではやっと通学路の除染が始まり、街路樹が伐採され始めました。福島県で暮らすという事はある程度の受け入れが必要で、本当は気になるけど気にしない鈍感力がないとなかなか大変です。

先日私費で受けた子ども達の甲状腺、血液検査の結果は避難していたにもかかわらず良くありませんでした。半年後再検査です。公的な甲状腺検査は紙切れ一枚の結果だけ伝えるもので、再検査も二年後で血液検査はありません。この状況は安心なのでしょうか？心配なら自分で検査してくれる病院を探し、検査を受けるしかありません。検査を受け入れている病院も数少ないです。

私達の町では建物は補修工事が進み、復興住宅も建ち始めています。復興は進んでいるというのが大方の見方でしょう。しかし行政には子ども達の健康問題にもっと力を入れて欲しいです。不安な生活状況から安心な生活状況になることこそ「復興」だと思います。